

目 次

北海道・道南地域における縄文時代晩期後半から

続縄文時代前半の磨製石斧の様相	佐藤由紀男	1
考古学研究の近現代史・学史を！	石川日出志	23
柳田國男とミネルヴァ論争	設楽博己	31
南関東地方における弥生時代中期土器研究の課題と展望	小倉淳一	39
弥生石器のデボ	杉山浩平	49
玉津田中遺跡出土木戈の祖型	寺前直人	59

北陸福井県南越地方の弥生時代中期後半の様相

一越前市(旧今立町)横枕遺跡と盆山古墳群

(下層の高地性の環濠集落)の再評価一	赤澤徳明	69
物質文化としての「道具」をかんがえるー「第三の道具」の提案ー	永井宏幸	83
型式・型式学と技術学的研究ー動作連鎖概念をめぐってー	黒沢 浩	91
埋葬施設における赤色顔料使用の変化と歴史的背景	石井智大	103
大和弥生集落研究の地平ー回顧と展望をめぐる断想ー	川部浩司	117
対談『考古少年たちの軌跡』パートⅠ「考古少年時代」		130
近江中期弥生土器における器種の量的分析	伊庭 功	141
集落形成にみる地域の個性断章ー「乙訓らしさ」とは何かー	國下多美樹	151

後期前葉の3墳墓の集落を求めて

一墳墓から弥生時代後期の集落を復原するー	肥後弘幸	159
集住から散住へー弥生後期「乙訓低地帯遺跡群」の評価ー	伊藤淳史	171
墓域における分節構造の把握に関する一試論	藤井 整	181
丹後地域における葬送儀礼への他地域からの影響について	村田裕介	193
銅鐸・祭器から素材へー脇本遺跡と大福遺跡の調査成果からー	池田保信	203
奈良盆地の弥生土器と「様式」	桑原久男	217

小規模集落の位置付けについて

一奈良盆地東南部のいくつかの事例の検討ー	川上洋一	223
石針の先端ー玉作穿孔実験からー	庄田慎矢・木内智康・小寺智津子・増田洋基	233
対談『考古少年たちの軌跡』パートⅡ「血気盛んな大学生時代」		242
紀伊における周溝墓の変質	田中元浩	259
行き交うモチーフ、とどまるモチーフ	村田幸子	273

近畿地方の弥生時代玉生産に関する覚書ー製作技術とその背景ー	廣瀬時習	287
庄内式の再素描	市村慎太郎	297
神戸市域における丘陵上集落について	阿部敬生	305
播磨周縁部摂津北部地域の1〇(いちまる)型中央土坑	山崎敏昭	319
淡路型甕の種類ー調整手法の差異とその特殊性ー	池田毅	329
弥生時代の「境界」	荒木幸治	339
対談『考古少年たちの軌跡』パートⅢ「激動の文化財行政世界へ」		350
台付装飾壺	松井潔	359
突帯文土器前半期のアワ圧痕 ー鳥取県青木遺跡におけるレプリカ法調査ー	濱田竜彦	377
弥生時代鉄鏃の着柄構造ー鳥取県・松原1号墓の特異な副葬鉄鏃ー	高尾浩司	389
山陰西部の集落遺跡ー古志本郷遺跡・下古志遺跡の検討ー	中川寧	401
弥生墳丘墓に付随する様々な遺構	会下和宏	411
宮山墳丘墓は古墳か	平井典子	421
吉備南部弥生時代後期から終末期における土器生産について ー岡山市百間川原尾島遺跡出土土器の検討を通してー	河合忍	431
太平洋沿岸地域における弥生文化の成立と田村遺跡	出原恵三	445
銅鐸と土器の文様をめぐる覚書	吉田広	457
古代瀬戸内海における海上活動に関する一試論	柴田昌児	463
対談『考古少年たちの軌跡』パートⅣ「4人への質問」		478
タタキ技法はいつまでさかのぼるかー弥生早・前期の甕を中心にー	武末純一	497
<歴史意識>のはじまりと弥生時代	溝口孝司	509
弥生時代小型青銅器の生産と展開についてー貝輪系銅釦を中心にー	田尻義了	521
博多湾沿岸域出土の日本海沿岸系土器 ー土器からみた弥生時代後期における日本海交流の様相ー	森本幹彦	533
寺福童と柳沢ー青銅器複数埋納の東と西ー	山崎頼人	545
考古学と環境教育の可能性ー弥生時代を例にー マーク・ハドソン、青山真美、岡田真弓、川島尚宗		559
弥生時代の倉庫群の展開に関する一考察ー有明海沿岸地域を中心にー	重藤輝行	569
対談『考古少年たちの軌跡』パートⅤ「若い人へのメッセージ」		580
プロフィール		586